



## リーダー養成研修会

2月4日から2月6日までの3日間、JAカレッジで行われたリーダー養成研修に寺坂允志部員と筆者で参加しました。全道各地からは19単組、35名の参加でした。

1日目は「JA 青年部活動に期待する事」と題し、ホクレン農協連合会副会長の柿林孝志氏、「JA 青年部活動とリーダーの役割」と題し、道

青協会長の村田辰徳氏、「JA 運動と JA 青年部の役割」と題し、JA 中央会共同活動推進室調査役の太田智氏の3名から講義を受けました。

実際に農協連合会や青年部のリーダーとなっている人の話を聞くことができ、改めて青年部が担っていくべき役割などを学ぶことが出来ました。

2日目はJA 中札内青年部の「食育難民」と題した実績発表の概要説明、「当面する農業政策の動向」と題し、JA 中央会農政対策部部長の平田靖氏、「JA 青年部リーダーのコミュニケーション」と題し、中小企業診断士の辻亨氏の3名から講義を受けました。

中札内青年部のように、行政と青年部が協力して子供たちの食育授業や地域行事への積極的な参加など私たちも参考にすべき点が多くありました。

辻氏の講義では、5人の班に分かれて、班内でコミュニケーションをとりながらのグループワークでした。普段、他単組の部員と話す機会はあまり多くないので新鮮でした。

懇親会で交流を深めました！



### 今月の 青年部

このコーナーは、地域の皆様に青年部を身近に感じて頂けるように、部員の日常の出来事を紹介しています



青年部長が変わった年の年度末に行われる支部巡回が各支部で行われました！

3日目は「JA 組織・事業の利活用の促進を目指して」と題し、JA 中央会共同活動推進室の後藤洋一氏の講義を受けました。

後藤氏の講義も5人の班に分かれての相互討議でした。

JA の利活用、必要性、利活用を高めるために、などの項目を組合員、地域住民、JA の運営側、青年部、と様々な立場で考えていくといった内容で班内で意見を出し合ってまとめ、各班で発表しました。

3日間を通して、他単組や酪農以外の仕事をしている部員との交流をすることができ他単組の青年部活動の話なども聞く事ができ交流を深めるとともに勉強になった3日間でした。この研修で学んだことを今後の青年部活動に生かしていきたいと思います。

《JA けねべつ青年部西部支部 助口 達》



## 根室地区JA青年部幹部研修会 開催！



農林水産省で意見交換を行いました。



MILKLAND HOKKAIDO→TOKYOを訪問しました。

1月15～17日、根室地区JA青年部幹部研修会に参加してきました。

15日の出発の朝は天気もよく、予定通り東京へ行く事が出来ました。初日の15日は農林水産省で意見交換を行い、参加メンバーからの質問や要望に丁寧に答えて頂き、また今後の情勢などの説明を受け、とても有意義な時間を過ごせたと思います。

16日は日本乳業協会（Jミルク）を訪問し、業務内容の説明や意見交換を行いました。Jミルクの事は知ってはいましたが、牛乳の流通や乳業の発展、そして酪農の発展に深く寄与していることを改めて知り、とても勉強になりました。

次に、MILKLAND HOKKAIDO→TOKYOを訪問し、東京という都会の中で北海道の牛乳・乳製品を楽しめるという空間を拝見し、改めて安心安全な牛乳を生産しようと思う事が出来ました。

最終日の17日は、伊東良孝衆議院議員を表敬訪問しましたが、残念ながら不在だった為、名刺のみを秘書の方に渡していただくようお願いをしてきました。

3日間天候にも恵まれ、非常に有意義な時間となり、これからの活動に役立てて行きたいと思います。  
《JAけねべつ青年部西部支部 支部長 本田拓哉》



第4回

## モーモーカレッジ開催！

1月31日にホクレン中標津支所畜産生産課の宮川俊氏を講師としてお招きして、第4回モーモーカレッジを開催しました。

研修内容は「粗飼料分析の基本と今年度の傾向について」と題し、自給飼料の成分分析はなぜするのかから、成分表の見方、成分の効能まで基本的な事項を分かりやすく、笑いも交え講じていただきました。

飼料は牛を飼う上で根幹をなすものです。この研修会をきっかけに、牛たちが健康で良質な生乳を持続的に生産できることを期待しております。



多くの質問にも丁寧に説明してくれました。



講師の宮川俊氏

計根別農協酪農対策協議会では改めて良質な生乳生産を目標に乳房炎防除に係る研修会を同一講師により防除対策の見直しを含め段階的なテーマで開催してきました。

今回2月19日に第3弾として三度、北海道デーリーマネージメントサービス社(有)榎谷雅文氏をお迎えし、「ミルカーの搾乳性能」と題しご講演を頂きました。

ミルカーの基本構造に始まり、乳牛の泌乳能力とミルカーの搾乳能力の関連性について、近年の個体能力は向上を続けている一方で、それを処理する搾乳機器の能力は低下傾向にあり、結果として搾乳時間の延長、個体能力は頭打ち、加えて乳房炎の発生原因に大きく関与しているとの事でした。短時間により多くの泌乳を処理し乳房炎の軽減につなげるために、自牧場のミルカーの搾乳性能を理解することが重要との事です。



講師の榎谷氏

### 今月の義を見てせざるは勇無きなり

2月に入り、日本各地で新型コロナウイルスが猛威を振るっております。

いまだ特効薬がなく、発症してしまった場合どのように治療をしたら良いか明確なことは何も分かっていない状況です。

となるといかに予防するかが重要になってくるわけですが、不要な外出を避け、出来る限り人混みを避ける、手洗いうがいをするなどの当たり前の予防策しか現状ではないところです。

ただ、どのような病気、感染症においても強靱で健康的な体力と精神力こそが、一番の予防になるのではないかと思います。

話は変わりますが、先日プロ野球界の名将、野村克也氏が亡くなりました。この場を借りて、ご冥福をお祈り致します。

野村氏は選手時代、捕手という負担の大きいポジションで歴代選手2位の3,017試合という出場数を記録し、通算打席数11,970打席、通算打数10,472は現在も歴代1位の記録として残っております。

監督としても通算3,204試合出場、さらには平成期間での最多勝利記録1,053勝を保持しており、選手時代、指導者時代ともに多くそして長く試合に出場し、素晴らしい結果を残しております。

それだけ多く、長く試合に出場できたのはなぜか？

それはもちろん怪我をしなかったから、少なかったからです。言うのは簡単ですが、スポーツを本格的にやるうえで怪我をしないというのは非常に難しいものです。

強靱な身体作り、練習後や試合後のケア、理想的な動作(フォーム)など全てにおいて追求していかなければ、このような結果は残せなかったと思います。

様々な病気が蔓延するご時世ですが、まずは強靱な身体、そして精神を上げることが予防や健康の第一歩ではないでしょうか？

最後に野村氏の言葉の一つ

「もうダメ」ではなく、「まだダメ」なのだ。」

### ビジネスマナーを学ぶ！

#### 挨拶から始まるコミュニケーションづくり

業務サービスの向上を図り、業務を円滑にまたトラブルを未然に防ぐため、『ビジネスマナーとコミュニケーション』に関する講習会を開催いたしました。講師には釧路市シーズサービス(株)迫田氏及び接遇マナー講師柴崎氏に依頼し、マナーがなぜ必要か、第一印象の重要性、挨拶、表情、身だしなみ、立ち居振る舞いなどについて研修しました。

マナーを意識し習慣づけることで、職員として社会人としての自信に繋がり、農協全体のイメージが良くなることが期待されます。今後、組合員やお客様が今まで以上に気持ちよく農協を利用して頂けるよう努めてまいります。





### 「農場の仕組みを明確にする」ことを考える

最近、農場HACCP（ハサップまたはハセップ）やGAP（ギャップ）などの言葉を耳にする機会が増えました。これらは、農場の仕組みや生産物に対して認証を受けるもので、「HACCP取ったらすごい」とか「GAP取ったら儲かる」などというものではありません。今回は農場内の仕組みを明確にする方法を、いくつかご紹介します。

※いずれの場合も家畜伝染病予防法の『飼養衛生管理基準』に基づく管理が基本です。

#### 1. 農場HACCP

- ・農場内の「仕組み」に対する認証である。
- ・牧場で毎日行っている作業手順を表にして、その中の1つ1つの作業を文章にする。
- ・生産物（生乳）への危害（抗生物質混入など）を予防するために、具体的に何をするか、明確にする必要がある。
- ・「これをやっちゃだめ」という決まりはないが、「この文書は必要です」という7章に渡る認証基準がある。

#### 2. GAP

- ・農場から生産される「製品」に対する品質保証である。
- ・作業手順の明確化と文書化は必要。加えて、労働安全、アニマルウェルフェア、環境保全に対する項目もある。
- ・GGAP（グローバル）、JGAP（ジャパン）、ASIAGAP（アジア）などがある。どこに商品を売りたいかでどのGAPを選ぶか判断する。
- ・「これについて、このレベルで行ってください」という「適合基準」がある（約100～300項目）。

#### 3. 農場マニュアル

- ・農場内の各作業を、『書いてある通りにやればできる“手順書”』としてまとめたもの。
- ・ルールは特にないが、他の人が見て分かなければ意味がない。

JAけねべつや普及センターでも、農場HACCPやJGAP（畜産）の指導員資格を取得した職員が増えています。自分の農場にはどんな仕組み作りが合っているか、お気軽にご相談ください。

細かく文書を作成しなくても、「農場の平面図（例：右図）」を作成することも有効です。居場所や資材を置く場所を知らせることで、農場を訪れる獣医師や授精師、配送業者等とのやりとりもスムーズになります。航空写真等を用いて作成してはいかがでしょうか？





信用事業のあり方をめぐり、道内108ＪＡでは2019年4月までに①単独②合併③信用事業譲渡（代理店化）の3つの選択肢に基づく検討が行われた。農協改革集中推進期間が終了する一方、マイナス金利の長期化に伴い、信用事業における奨励金水準の段階的な引き下げが始まる。ＪＡをめぐる環境の変化を踏まえ、今後も持続可能な経営基盤をどう維持していくのか。北海道大学・小林国之大准教授の進行で、「持続可能なＪＡの事業運営」について道内ＪＡ関係者にご議論いただいた。

#### 【出席者】

小林 国之大  
北海道大学大学院農学研究院准教授  
柴田 倫宏  
ＪＡ北海道中央会専務理事  
宮本 英靖  
ＪＡピンネ代表理事組合長  
佐藤 正昭  
ＪＡこしみず代表理事組合長

出典：『北海協同組合通信2020新春特集号』  
「持続可能なＪＡの事業運営」北海道協同組合通信社

#### 信用事業は全道で約35億円の減少

**小林** 今日のテーマは「持続可能なＪＡの事業運営」。農協改革については、ＪＡグループの自己改革に一定の評価も出てきているが、経営の視点から見ると、これからかなりシビアな状況が予想される。特に20年度から農林中金の奨励金引き下げが始まり、金融事業を中心とした都府県のＪＡだけではなく、農業地帯の北海道のＪＡにとっても非常に大きな課題になっている。まずは農協改革や金融環境の変化を踏まえた農協経営のあり方として、全道の方向性と各ＪＡの取り組みなどをうかがいたい。最初に中央会が19年4月に取りまとめた各ＪＡのあり方検討の状況を。

**柴田** 5年間の農協改革集中推進期間が19年5月に終了し、ひとつの区切りがつけられたが、この間にいろいろな改革を求められてきた。同時に、金融情勢もマイナス金利が長期化し、日本の経済システムが大きく変わり、そこに農協も飲み込まれつつある。持続可能な事業運営に向けて全道108農協の皆さんはどう考えていくのかということで、農林中金の奨励金引き下げを前提にそれぞれシミュレーションしてもらい、

単独、合併、信用事業譲渡の3つの選択肢も示しながら、19年4月までに各農協で再点検していただいた経過にある。

その結果、108農協のうち、コスト削減や販売強化などに取り組みながら、単独の総合事業体としてやっていくと回答したのは94農協で、このほか事業基盤強化のため合併を検討したいと回答したのは11農協だった。このうち8農協はすでに合併検討委員会などの枠組みがあるが、枠組みなしのところも3農協含まれている。また、あり方検討とは事情が異なるが、日高の3農協が信用事業譲渡を選択している。

なお、検討に当たっては、農林中金やＪＡ道信連からの還元率を一律で設定し、各農協の中期計画などをもとに2023年度の収支見通しをシミュレーションしていただいた。日高3農協を除く105農協の部門別事業利益を見ると、17年度と比較して信用事業は全道で約35億円のマイナスが見込まれるほか、共済事業も長期共済保有高の減少により収益率が下がるため約11億円減、購買事業も約12億円減。このほか、販売事業利益は微増の2億円、その他が9億円増で、事業総利益全体では約47億円のマイナスとなっている。これ



**小林 国之**  
(こばやし・くにゆき)

1975年北海道生まれ。北海道大学大学院農学研究科を修了後、助教を経て2016年から現職。地域連携経済学研究室。主著は「ホクレン販売事業にみる経済連の組織機構と機能」「総合農協のレーゾンデートル」「北海道から農協改革を問う」など。

に対し、事業管理費は12億円増えるため、経常利益は71億円のマイナス。17年度と比較して35%ほど厳しくなるという結果が出ている。

**宮本** 当農協でも影響は大きく、シミュレーションの結果、22年には現行と比較すると信連からの奨励金で約5000万円ほど落ちる。しかし、今までも農協本来の姿は、組合員の結集があつて、われわれが農産物をしっかり集荷して有利販売することが第一で、この農産物の販売が金融・共済、経済事業につながっていくというイメージです。とやってきている。これからもしっかり組合員の理解をいただきながら、農産物の集荷率を高め、さらに系統が有利販売を続けていけば、何とか乗り切っていけるだろうと考えている。

**小林** しかし、5000万円というのは大きな額だ。畑作・酪農地帯に比べて水田地帯は貯貸率が低く、預金運用が中心。より大変なのでは

ないか。

**宮本** 確かに貯貸率は7%で預金の割合が高く、その分今回の奨励金引き下げは非常にきつい。ただ販売面においては、おかげさまで米の集荷率が93%と高い。これからも農協に対する組合員の理解をつないでいきながら、農協離れを食い止めることによって、信用事業の減収分は全体でカバーできるとするのが基本的な考え方だ。

2006年に営農センターを立ち上げ、営農部と農産部をひとつの組織に入れると同時に、営農部の中に営農渉外課を設けた。このスタッフは4人で、仕事は農家回りが専属。中身は生産資材の推進、営農相談、農作業の人材派遣とさまざまだが、それによって農協への結集と集荷率の向上が図られ、その延長で金融、共済事業に結びついていけばいいと考えている。実際に渉外課を始めてから販売高は2億5000万円

ほど伸びてきた。こうした取り組みを進めていくことがこれからの農協経営にとって重要だと考えている。

**小林** ピンネの営農渉外課は、全国的に見るとTACに近い仕組みだと思う。組合員との関係性や若い世代の変化は。

**宮本** 営農渉外課の組合員訪問は毎日のことなので、特に何も用意せずにかがうことが多いが、その中で、基本的に農協は皆さんがつくって皆さんが利用する組織であり、いここ取りでは大変なことになる、皆さんが結集することが大切だという指導は欠かさないようにしている。併せて青年部組織にも渉外課の担当者などが顔を出し、青年部の中から次の農協の経営者が出てくるということも伝えてきており、それによって若い世代の意識も少しずつ変わってきた気がする。また、以前は渉外課に女性スタッフがおり、そのため農家のお母さんや娘さんなどの相談

ごとにも聞くことができた。ここは職員の配置を工夫しながら将来に向け再設置を考えている。

**小林** 全国的に見ても農家の女性の声をきちんとくみ上げるというのは重要な取り組みであり、北海道はまだ足りない部分があるが、農協への結集力という面からも、経営主はもちろん、女性の声を聞くことでさらに広がりが出てくると思う。このほか、組合員との対話という意味では、ピンネでは全職員が農事組合組織などに出向く一斉推進にも取り組んでいる。

**宮本** それは渉外課とはまた別の「相談機能」という組織体で、121人の職員を5人平均で21班に分け、管内全地区に割り振り、春は米の契約や水田の作付け、秋は集荷体制の相談などに出向いているもの。農協からの押し付けではなく、組合員からも頼りにされており、逆に「来てくれ」と言われて行くこともある。



**柴田 倫宏**  
(しばた・みちひろ)

1966年生まれ、北海道大学農学部卒。88年北農中央会入会、90年函館支所、95年帯広支所、99年農業対策部畑作農業課、2006年札幌支所、09年基本農政対策室、12年農業対策部畑作農業課長、13年同酪農畜産課長、16年東京事務所長、17年常務理事、19年9月から現職。





**宮本 英靖**  
(みやもと・ひでやす)

1953年生まれ。拓殖大学北海道短期大学卒。99年にJ Aピンネ監事、2002年代表理事専務を経て、08年から現職。17年からは空知農協連副会長、空知管内農協組合長会副会長、ホクレン理事を務める。道農協米対策本部委員。

**佐藤** 問題は、われわれは金融農協ではなく、販売農協だということ。まずそこをしっかりとやっていかないとけない。農協は金融・共済で成り立っていると見られがちで、もちろん金融の利益もあるが、基本は営農指導であり、それによって農家の皆さんの生産力を上げていくための組織。常にそこを真ん中に置いてやっていくことが大切だ。さりとて、金融・共済は農家組合員だけでなく地域住民からも頼りにされている。うちも准組合員が6割以上を占め、地域住民に支えられている部分がある。小清水には郵便局と信金もあるが、金融のシェアは農協が約7割。地域住民の生活を守るために必要な組織になっている。

シミュレーションについては、うちは交付金を入れた年間の売上が140億円ほどあり、貯金は260億円ぐらい扱っているが、5年後には事業利益が約5000万円減る。そ

の先はもっと減る可能性もある。しかし、そこは工夫次第だろう。当然これから金融事業は譲渡せずに行き渡らせる。

ただ、営農指導の中身を細かく見ると、土地の売買から税金対策、農作業事故の対応、さらには冠婚葬祭や高齢者の悩みごとの相談など、相当幅広いことをやっている。これから金融・共済が厳しくなっていくとすれば、そこは組合員にきちんと説明し、営農指導はすべて無償という認識は、少しずつ変えてもらわなければならぬだろう。そのためには組合員に正確な情報を伝えていくことが大切。今は当たり前になっていくことも、実は当たり前ではないということ伝えることが大事だと思う。

**小林** 組合員の理解や教育という面で、小清水は地域の歴史を組合員に伝えるなど積極的に取り組んでいる。



**佐藤 正昭**  
(さとう・まさあき)

1948年生まれ。93年J Aこしみず理事、02年からホクレン理事、11年からオホーツク農協組合長会会長、オホーツク農協連代表理事、J A道中央会理事、J A全農総代などを務める。

### 農政運動の重要性を再確認

**小林** 一連の農協改革の動きについて、実際に組合員の人たちはどれ

**佐藤** そこを一生懸命やらないと、自分一代でここまできたような感覚になって、ひとりで何でもできると錯覚する人が出てきてしまう。先ほど米の集荷の話があったが、うちの畑作3品が中心なので少し違うけれども、系統利用が当たり前という空気をつくっておくことは大切。生産部会などでも、ただ罰則規定を設けたのでは「ペナルティを払えばいいだろう」という話になるが、そうではなく、皆で決めたことは皆で守り、地域で守るという意識を持ってもらわなければ。それが寄り集まって農協への結集につながる。そのためには農協としても組合員が何を求めているのかを知り、いかにしてこちらを向いてもらうか、ということが一番大事になってくると思う。

ぐらい危機意識を持っているのだろうか。例えば中央会の連合会化など、人ごとのような思いがあるとすれば、そこは問題だと思う。

**佐藤** 多くの組合員にとっては人ごとだろう。しかし気にしている部分はあつて、よく言えば、組合長や役員に任せておけば安心だと思ってくれているのかもしれない。それが人ごとではないと伝えるには、ひとつは組合員教育をやって、政治に興味を持ってもらう努力をすることだろう。小清水では5年ほど前に農民連盟が解散したが、そうなると組合員が勉強する場所もなくなってしまう。そのため新たに農政協議会をつくり勉強してもらっている。北海道の農業は交付金の割合が大きく、中央会を中心とした農政活動があつて初めて経営が成り立つ。決して自分ひとりの力で生活できているわけではない。そこはきちんと制度を含めて教えていかなければ。



ただ、今はいろいろなところから情報が入るし、農業団体と同じような活動をする組織も始めている。そうすると、われわれが国に要請してや々と積み上げてきたものが、メールなどですぐ手に入る。それも言ってみれば情報のいいところ取りで、農協も農連も関係ないという人が出てくることになる。これから先はそういうところにも注意を払っていかねければならない。

**小林** 中央会も9月から連合会となったが、北海道のJAGグループを代表する組織として、これまで中央会が果たしてきた機能や役割、存在意義などを、末端の組合員にも見えるような形に変え、発信していく必要がある。

**柴田** 中央会も連合会になってスリム化しなければならぬし、やるべきことはきちんとやらなければならない。そういう思いで19年4月に第4次中期計画を立て、3つの基幹事業とともに、農政事業を重点事業として位置づけた。その中で特に農政運動については、かつてのガット・ウルグアイラウンドの時代は、外圧を利用して自ら勉強し、組織に結集するという、まさに協同組合運動の原点とも言える状況があったと思うが、WTOが空中分解して2

国間の経済連携に移ってきたころから、後の農協改革の影響などもあり、運動の機会が少なくなってきたのは事実。中央会が進むべき道は中期計画に示したが、組合員教育を含めた具体的な運動のあり方なども考えていく必要があるだろう。

**佐藤** 私が組合長になった当時はWTOがあり、よく全道の組合長の皆さんと一緒に運動に出た。国にも要請に行ったし、全国大会などにも参加した。しかし最近はそのような機会が減り、参加する組合長も少なくなっている。こういうものは自分で参加して経験することによって、組合員に対してしっかりと説明できるようになる。農政運動の中でもそこが今、非常に足りないところだと思う。

**柴田** 農業団体が大会や集会を開催すると、外からは「こぶしを挙げている」と見られてしまうかもしれないが、実際はそれにより組織内の結集が高まったり、地元に戻ったときにより正確な情報を組合員に伝えられるという側面もある。そこをもう一度考え直さなければいけないのかもしれない。JA全中主催の大会も開かれなくなったが、この2年「全国フォーラム」という名前で開催しており、農政運動に対する危機意識の表れだと思う。

**佐藤** そこは形を変えてでもやらないとだめだ。農協改革の中でひとつよかったのは、うちの組合員は中央会の役割を理解してくれている。ホクレンに対してはいろいろな言うが、「中央会は絶対に必要な組織」という理解が組合員にあったこと。正直意外だったがすごくうれしかった。やはり農政活動をしっかりとやっていることが伝わっているのだと思う。非常に大事なことであり、ここを緩めてはいけない。

**柴田** 農協というのは経済事業体であると同時に運動体であり、手法を含めて運動体の部分をやや疎かにしてきたことが、今日の組合員の組織離れを招いている可能性もあり、そこは中央会の役割が大きい。しっかりとやらなければならない。

**小林** なかなか伝わりにくい部分であり、特に比較的若い世代は農政運動という言葉に距離を置きたがる場所があるが、北海道の場合、農政運動の成果として手にしてきたものは非常に大きい。しかし最近個人が自由にやることを助長する仕組みになっていて、国が示す政策の方向に沿って「それにどう合わせるか」という手法が変わってきているように見えるが。

**柴田** 確かに、畑作物などは当時

の品目横断など北海道主導で仕組みをつくってきたが、米は全国の仕組みの中でどう北海道に合った運用にしていくなかというのが、最近の動きになってきている。特に米政策の見直しが始まったここ数年、農政運動の中で農水省とも意見交換を重ねながら、北海道が求める具体的な仕組みを北海道提案型で強く誘導してきた部分がある。

**宮本** 具体的には、全国一律の米政策の中で、産地交付金について地域でフリーに配分できるような仕組みを要望し、道枠と地域枠というやり方に対応してもらったのが大きなポイントだと思う。また米の作付面積に関しても、加工用米などのいわゆる水張り転作に地域で自由に取り組めるようになっていたが、これもわれわれが要請しながら、農水省と一緒に仕組みをつくってきたもの。ここはもう少し広げていきたいと思っている。

**小林** これからもそうした地道な農政運動の成果を地域農業の振興や農協事業に結びつけていくことが重要。ただ、本来はそれらがすべて一体となって展開してきたのが日本の農協の特質であり、今はそこが分断されてきているという課題もある。

(つづく)

## JA北海道中央会



ド・ファーム)」を開園しています。収穫した「トウモロコシ」や「馬鈴しょ」はコンサドーレのホームゲーム時にチャリティー販売を行い、その収益によりサッカーボールを購入し、道内の児童養護施設に寄贈しています。

今年度の募金額は174,916円となり、道内24か所の児童養護施設に48個のサッカーボールを贈呈することができました。この取り組みは平成21年より実施しており、サッカーボールの累計贈呈数は今年度で約500個となっております。

1月30日に道内の児童養護施設を代表して札幌市内の養護園で贈呈式を行い、JAグループ北海道より、JA北海道中央会の飛田会長、北海道コンサドーレ札幌より河合C.R.Cとドーレくんがサッカーボールを贈呈しました。



## JA北海道信連



1月22日、旭川市内で「JAバンク北海道農業経営セミナー」を開催しました。北海道農業の未来に向けた農業経営者の「経営力向上」をテーマに講演が行われ、全道各地の農業経営者などが参加されました。講演では、農福連携・農福一体の取り組みや、地域ぐるみのブランド戦略等の事例について各講演者から説明がありました。講演後、交流会も催し、農業経営者間の情報交換及び連携強化を図りました。



## JA共済連北海道



JA共済では、『「こども共済」資料請求キャンペーン』を実施しております。JA共済ホームページから「こども共済」の資料をご請求いただいた方に、『JA共済オリジナル アンパンマンはらまき』をプレゼントしております。キャンペーンは令和2年3月27日(金)までで、先着60,000名様限定となっております。この機会にJA共済のホームページにアクセスいただけますようお願いしております！

○JA共済HPアドレス  
<https://www.ja-kyosai.or.jp/>



## ホクレン



冬至シーズンの道産かぼちゃ供給に向けてホクレンが商品化した銘柄「りょうおもい」を使った煮付けとあんこを組み合わせた総菜「冬至かぼちゃ」をセイコーマートが新規開発し、昨年12月に道内と茨城県に展開する全店で冬至前後の期間限定での試験販売をしました。「りょうおもい」は、ホクレンが品種選定、貯蔵技術の研究を進め、生産者・消費者双方の「思い」として命名し、ホクホク感と甘味のバランスのとれた、おいしいかぼちゃです。



## JA北海道厚生連



組合員ならびに地域住民の皆様の生命と健康を守るため、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。年3回発行しており、様々な医療・健康情報を発信しております。

ホームページにもバックナンバーを掲載しておりますので、是非ご覧ください。



JAグループ北海道の連合会・中央会の活動内容を紹介します。各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。







## 牧場内の見える化

農場内の情報の共有はうまくできていますか？4月になると年度が変わり、従業員の入れ替わりや農場に新しい人が来る機会も多くなると思います。今回は農場内での情報共有を上手にやっている事例を紹介합니다。伝達ミスなどが起こらないよう情報の整理、共有に取り組んでみませんか？

### 1. 飼養管理の場面

- 掃除の仕方などの作業工程、飼料給与の具体的な方法。(写真1)
- 個体ごとに誕生日とほ乳量を記録。(写真2)
- 体調が悪い牛がいる場合は周りに分かるように書く。

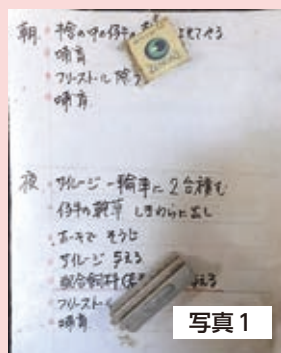


写真1

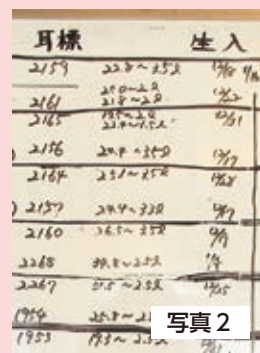


写真2

### 2. 搾乳の場面

- 個体ごとの治療や乳房炎の有無など。(写真3)
- 搾乳できない乳房がある場合は分かるようにする。
- 足バンドをつけている個体の情報。(写真4)
- ミルクタップの近くに乳房炎の有無が分かるようにする。
- ライナーなどの搾乳機器の交換時期をパーラーの入り口など見やすい場所に貼る。(写真5)

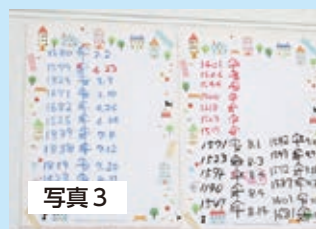


写真3

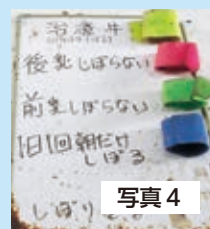


写真4

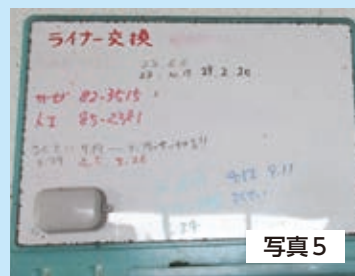


写真5

### 3. 農場管理の場面

- 大きめのカレンダーを使い、今後の予定を記載。(写真6)
- 農場内の資材や建物の場所が分かるようにする。航空写真を活かして関係者や配送業者に伝わるようにする。



写真6

農場内のいろいろな場面での情報共有の工夫を紹介しました。今回紹介した事例で共通しているポイントは、「よく見る場所に設置(事務所やパーラーへの出入り口など)」と「具体的でわかりやすい内容」です。

紹介したような工夫は簡単に取り組むことができ、情報共有を円滑にします。ホワイトボードなども簡単に手に入るの、是非取り組んでみてください！

# 生乳販売情報

令和元年度2月末 管内農協生乳受託実績表

(kg)

| 農協名         |           | 月計         |       | 累計          |       | 搾乳戸数  |
|-------------|-----------|------------|-------|-------------|-------|-------|
|             |           | 乳量         | 前年比   | 乳量          | 前年比   |       |
| J A 標 津 町   |           | 9,206,439  | 103.4 | 90,243,998  | 104.7 | 128   |
| J A 中 標 津 町 |           | 11,563,574 | 104.5 | 111,279,385 | 103.3 | 163   |
| J A け ね べ つ |           | 7,469,594  | 104.4 | 73,899,461  | 103.4 | 135   |
| J A 中 春 別   |           | 10,893,100 | 104.1 | 105,028,740 | 102.7 | 170   |
| 道東あさひ       | 西 春 別 支 所 | 7,986,141  | 103.3 | 77,827,222  | 101.9 | 126   |
|             | 上 春 別 支 所 | 5,629,987  | 100.0 | 55,900,634  | 101.6 | 70    |
|             | 別 海 本 所   | 12,743,999 | 104.0 | 126,461,763 | 102.5 | 221   |
|             | 根 室 支 所   | 4,399,067  | 108.9 | 42,730,868  | 103.9 | 80    |
|             | 小 計       | 30,759,194 | 103.7 | 302,920,487 | 102.4 | 497   |
| 合 計         |           | 69,891,901 | 103.9 | 683,372,071 | 103.0 | 1,093 |

# 市場情報

ホクレン根室家畜市場 一般市場 2月12日開催分

税込み

| 畜 種        | 出場  | 成立  | 最 高     | 最 低     | 平 均     | 先月との差    |
|------------|-----|-----|---------|---------|---------|----------|
| 乳牛・ホル 育成   | 19  | 18  | 638,000 | 187,000 | 440,244 | 49,551   |
| 乳牛・ホル 初任   | 6   | 6   | 854,700 | 537,900 | 717,933 | 52,221   |
| 乳牛・ホル 経産   | 14  | 14  | 585,200 | 207,900 | 372,664 | 57,304   |
| 乳牛・ホル・無経産  |     |     |         |         |         | 0        |
| 肉素・黒毛和種・メス |     |     |         |         |         | -401,220 |
| 肉素・黒毛和種・オス | 1   | 1   | 408100  | 408100  | 408100  | 374,944  |
| 肉素・黒毛和種・去勢 |     |     |         |         |         | 0        |
| 肉素・乳用交雑・メス |     |     |         |         |         | 0        |
| 肉素・乳用交雑・オス |     |     |         |         |         | 0        |
| 肉素・ホル中牝・メス |     |     |         |         |         | -140,760 |
| 肉素・ホル中牝・オス | 3   | 3   | 121,000 | 20,900  | 66,733  | 27,421   |
| 肉素・ホル中牝・去勢 |     |     |         |         |         | -109,080 |
| 肉素・ホル・メス   | 12  | 12  | 322,300 | 170,500 | 272,983 | 79,123   |
| 肉素・ホル・オス   |     |     |         |         |         | 0        |
| 肉素・その他・メス  |     |     |         |         |         | 0        |
| 肉素・その他・去勢  |     |     |         |         |         | 0        |
| 初生・黒毛和種・メス | 11  | 11  | 609,400 | 143,000 | 428,900 | -25,382  |
| 初生・黒毛和種・オス | 16  | 14  | 630,300 | 259,600 | 447,857 | -116,871 |
| 初生・乳用交雑・メス | 102 | 102 | 270,600 | 1,100   | 143,884 | -58,934  |
| 初生・乳用交雑・オス | 127 | 127 | 359,700 | 3,300   | 220,745 | -86,220  |
| 初生・ホル・オス   | 81  | 81  | 198,000 | 1,100   | 100,562 | -4,755   |
| 初生・ホル乳用・メス | 22  | 22  | 419,100 | 53,900  | 248,250 | -63,035  |
| 初生・異性双児・メス | 5   | 5   | 81,400  | 9,900   | 41,140  | -7,951   |
| 初生・その他・メス  |     |     |         |         |         | 0        |
| 初生・その他・オス  | 1   | 1   | 7,700   | 7,700   | 7,700   | -51,700  |
| 廃用黒毛和種     | 1   | 1   | 220,000 | 220,000 | 220,000 | -75,380  |
| 廃用・乳用交雑    |     |     |         |         |         | -306,720 |
| 廃用・ホル      | 126 | 126 | 330,000 | 18,700  | 178,095 | -33,951  |
| 廃用・その他     |     |     |         |         |         | -96,120  |

ホクレン十勝地区家畜市場 (音更町)

税込み

| 畜 種         | 出場   | 成立  | 最 高       | 最 低     | 平 均     | 先月との差   |
|-------------|------|-----|-----------|---------|---------|---------|
| 肉素・黒毛 メス    | 450  | 405 | 1,009,800 | 225,500 | 631,563 | -68,802 |
| 肉素・黒毛 メス ET | 240  | 206 | 953,700   | 412,500 | 715,016 | -62,313 |
| 肉素・黒毛 メス計   | 690  | 611 | 1,009,800 | 225,500 | 734,403 | 5,853   |
| 肉素・黒毛 オス    |      |     |           |         |         |         |
| 肉素・黒毛 去勢    | 703  | 626 | 1,104,400 | 236,500 | 743,133 | -68,192 |
| 肉素・黒毛 去勢 ET | 375  | 325 | 1,109,900 | 366,300 | 811,583 | -57,152 |
| 肉素・黒毛 去勢計   | 1078 | 951 | 1,109,900 | 236,500 | 790,140 | -41,864 |
| 肉素・短角種 去勢   |      |     |           |         |         |         |
| 肉素・肉専用種 去勢  |      |     |           |         |         |         |
| 繁殖・黒毛       | 67   | 54  | 1,347,500 | 393,800 | 744,069 | 31,826  |
| 繁殖・乳用交雑     | 13   | 2   | 682,000   | 662,200 | 672,100 | -83,833 |
| 廃用・黒毛       | 85   | 85  | 504,900   | 130,900 | 299,239 | -34,036 |

## 計根別農協乳牛頭数・肉用牛頭数

2月1日現在

| 乳 用 種 (区分)        | 頭 数    | 先月との差 |
|-------------------|--------|-------|
| 未 経 産 1 2 ヶ 月 未 満 | 3,735  | 7     |
| 未 経 産 1 2 ヶ 月 以 上 | 4,215  | 23    |
| そ の 他 の 未 経 産     | 57     | 0     |
| 計                 | 8,007  | 30    |
| 経 産 牛 ( ホ ル )     | 9,841  | 4     |
| そ の 他 の 経 産 牛     | 59     | -1    |
| 計                 | 9,900  | 3     |
| 合 計               | 17,907 | 33    |

ホクレン根室家畜市場 乳牛市場 (セール) 2月6日開催分

税込み

| 畜 種        | 出場  | 成立  | 最 高       | 最 低     | 平 均       | 先月との差   |
|------------|-----|-----|-----------|---------|-----------|---------|
| 乳牛・ホル 初妊   | 414 | 328 | 1,103,300 | 441,100 | 823,548   | 58,911  |
| 乳牛・ホル初妊ET  | 26  | 22  | 1,331,000 | 551,100 | 1,047,300 | 154,519 |
| 乳牛・ホ無 初妊   | 10  | 6   | 903,100   | 609,400 | 745,250   | 3,830   |
| 乳牛・ホ無 初妊ET |     |     |           |         |           | 0       |
| 乳牛・ホル 経産牛  |     |     |           |         |           | 0       |
| その他の乳用種    |     |     |           |         |           | 0       |
| 合 計        | 450 | 356 | 1,331,000 | 330,000 | 711,864   | -65,742 |

計根別農協(ホクチクファーム) 初生トク \*0単価 2月19日現在 1,800円/kg

| 肉 用 種 (区分)        | 頭 数    | 先月との差 |
|-------------------|--------|-------|
| 黒 毛 和 種 メ ス       | 538    | 3     |
| 黒 毛 和 種 オ ス       | 81     | -9    |
| 計                 | 619    | -6    |
| F 1 ( 交 雑 種 ) メ ス |        |       |
| F 1 ( 交 雑 種 ) オ ス |        |       |
| 計                 |        |       |
| 合 計               | 619    | -6    |
| 総 合 計             | 18,526 | 27    |



# まちがいさがし

右のイラストには左のイラストと違う部分が5カ所あります。間違っている部分を左下の枠内の数字で探しましょう。



●正解者5名の方にすてきなプレゼントをさしあげます。なお、正解者多数の場合は抽選とさせていただきます。

《応募方法》左下の点線の部分を事務所入り口に設置している投書箱へ。または、営農企画係までFAX(78-2048)をお願いします。

《締め切り》2020年3月20日まで  
当選者の発表は「けねべつ」2020年4月号誌上

## まちがいさがし2月号の答え

1 2 7 9 12

抽選の結果右記の方が当選いたしました。  
プレゼントを営農企画係でお受け取り下さい。

太田美恵子さん  
小林 孝さん  
工藤 克子さん  
田中 祥太さん  
太田恵美子さん

きりとり線

## まちがいさがし 3月号の答え

|  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|
|  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|

住 所

氏 名

T E L

「つばやくべえ」へ投稿する

きりとり線



### ◆久しぶりに！

30年前にしまっておいた  
トランプを出して遊んでいます。  
ボケ防止も楽しいもので  
すね。

(ペンネーム なかよしさん)



### ◆最近話題の…

新型コロナ肺炎早く治まってほしいですネ！  
健康、平和が一番ですネ！

(ペンネーム 山親父さん)



「つばやくべえ」では皆さんのつばやきやシャッターチャンスなどを募集しています！営農企画係までメールするか事務所玄関の投書箱への投稿お待ちしております！  
einoukikaku@kenebetsu.ja-hokkaido.gr.jp

この写真を見て一句！



先月のお題『ふきのとう』でした。

春一番 顔を出すのは ふきのとう (ばあさんの作品)

ふるさとに 肩組むやうに 落の臺 (小田 慶喜さんの作品)

太陽に 背伸びしている ふきのとう (小田 和子さんの作品)

春色の 香うれしき ふきのとう (なかよしさんの作品)

若芽色 春の息吹に 刺激され (豆銑 礼さんの作品)

春近し 陽気を誘う 落のとう (松風さんの作品)



■ 例 文 ■

遠くから 子の笑い声 冬日和  
眩し空 春待ち遠し 上を向く

(ホワイト・アルバムさんの作品)

今月のお題『冬の晴れた日』です。  
皆様の素敵な作品をお待ちしております。  
(3月20日締切) 営農部までFAXまたはつぶやくべで。  
また、お題の写真も募集しております。  
素敵な写真がありましたら、是非ご提供してください。

